

ちょっとひと工夫

— 家庭学習改善のための情報 —

家庭学習通信 No.25

平成29年9月発行

長野県教育委員会

学力向上推進チーム

Gチーム

教科会で力を合わせ、今できる取組から始める

～喬木村立喬木中学校の実践～

Gチーム研究班 高橋 廣貴（総合教育センター専門主事）

宿題を見直すことでP調査の結果に変化が現れ、手応えを感じている喬木村立喬木中学校の国語科の先生方。教科会の様子を紹介します。



白文帳を使った漢字練習を宿題にしているけれど、生徒の力になっているのかな？受験をむかえる3年生の宿題について国語科のみんなで宿題について考えてみませんか。

いくつかの宿題の中から、生徒が自分で選ぶようにしたらどうかな。宿題のやらされ感が少しは減らせるかもしれないし、自分に足りない力を自覚し、そこを何とかしようとする取り組み始めるかもしれないよ。



センターホームページにあるクリア・チャレンジ問題や漢字プリントも選択できるようにしたらどうかな。漢字練習が単なる作業で終わってしまっている生徒にとっては、クリア・チャレンジ問題で読解力をUPさせることができますよ。

新聞社等のネットワークサービスに登録すれば無料で教科のワークシートが送られてくるらしいよ。クリア・チャレンジ問題の他にこういうものも活用すれば、選択できる問題の種類も増えるよね。



教師の意図した宿題も生徒にやって力をつけてほしいよね。3年生の2学期からは全て選択制ではなく、週末の宿題は生徒が力をつけるように教師が用意しましょう。

喬木中学校の国語科では、教科会での取り決めをもとに昨年度の2学期から上のような取組を徐々に始めました。すると、本年度の全国学力・学習状況調査では空欄の数が減ったり、P調査の結果に少しよい変化がみられたりして、教科会では変化の手応えを感じました。また、選択制にしてから意欲的に家庭学習に取り組む生徒が増えたなど、変わってきた生徒の具体的な姿が教科会で話題になりました。

「国語の教科会の取組でみえてきた生徒の変化を他の教科会の先生方にも伝え、学校全体でよりよい家庭学習を考えられたらいいなあ」と研究主任の先生は語っていました。